

cross care NEWS

vol.3

interview

「できる」を増やして、自己成長を感じられる場

マスクの壁を越えた、 コミュニケーションを

いつも笑顔でいることを心がけているのですが、こんなご時世なので、マスクで顔の半分が隠れちゃいますよね。口角をいくら上げても見えないんです。そんななかで最近気づいたことがあって、**目でも笑っていることを伝えられるんです**。目の力はすごいんですね。利用者さんと笑顔で接することによって、普段あまり笑顔を見せない方が笑いかけてくださることがあると嬉しいですね。その笑顔を見て、「気持ちを少し理解できたのかもしれない」と思うこともできて、より一層笑顔になってしまいます。

施設での事例研究として、誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトの発表が2年続けてありました。1年目はよくわからない状態で始めたのですが、2年目の発表で**1年やってきたことの再確認**ができて、「ちゃんとしなきゃ」と背筋が伸びる思いでした。やり方が分かってくると、利用者さんとの**コミュニケーションツールにもなります**ね。マッサージをしながら「美人さんになるからね」などと声掛けをするんです。時間があるときは、自分自身の歯磨きに利用者さんに行っている口腔ケアの方法を取り入れることもあるんですよ。



社会福祉法人 今山会
みなかぜ
施設長 中村 浩さん

私の役割は、**施設で働く職員がやりがいを持てるような環境づくり**をすることだと思っています。この業界は常に人手不足だと言われていますが、離職率が高いのは事実です。そのような状況下では、やりがいが大切だと考えています。私は**自己成長を実感することがやりがいにつながる**と思っているんです。そのために学べる場をつくれなにかといつも考えています。介護って「身の回りのお世話」というだけで捉えられがちなのですが、例えば医療に関して、実際に治療はできませんが病気や、利用者さんが服用している薬の効能などの知識を身につける自由はあると思うんです。**知識を持って、お互いを尊重できる職場**であればいいなと。

口腔ケアの方法を身につけることも、その一つだと感じています。「**できる**」を増やしたいし、実際に増えていっていると思います。CCDさんのバックアップがしっかりしているので、導入する側としては1から始めるよりも負担が少ないと感じました。相談しながらなので、参加しやすいです。



社会福祉法人 今山会
みなかぜ
介護職員リーダー 末松 久美子さん

セミナーレポート

9月30日、「令和3年度熊本県老人福祉施設口腔ケア研修会」にて、歯科医師 瀧内 博也によるオンライン講演を実施。介護報酬の改定で口腔ケアの重要性が高まったことによる、利用者の方の身体的負担の増加や職員の方々の業務の負担増加にどう対応していくか、口腔ケアの目的と方法の明確化等について**誤嚥性肺炎ゼロプロジェクト**を踏まえ、お話をさせていただきました。

- 1、誤嚥性肺炎とは
口腔ケアの重要性
- 2、標準化された
週2回の口腔ケア
- 3、R3年4月
介護保険改正に
ついて



約100 端末(1 端末あたり 1~3 名)と、多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございます。講演後にいただいた感想を抜粋してご紹介させていただきます。

『口腔ケアに時間をかけず、週2回のケアでも感染予防にもなりリハビリにもなるということがよく分かりました』

『口腔ケアをすることによって、誤嚥性肺炎以外の疾病も抑制できることを学びました』

『改めて“誤嚥性肺炎の予防と稼働率の関係性”、“将来的には自分たちに還元されるサイクルの話”は今のシステムに即した内容だと思いました』

ー編集後記ー

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。取材中、「他の施設の様子を知ることのできる媒体があったら良いと思っていました」とのお声があり、みなさんにとって、そのようなものになっていればいいなと思います。では、次回はまた冬にお会いしましょう。

2021年10月 編集担当：川谷

株式会社 クロスケアデンタル

編集担当：川谷 結衣

問い合わせ先：092-986-9600

info@crosscare-dental.jp



CROSS CARE
DENTAL